

学校を核とした地域づくり



教育長 曾根 乗知

「地域づくり」と「学校」は関係ないと、思う人がいるかも知れません。

しかし、学校を舞台にして、大人と子どもや、大人同士の「人間関係のつながり」を豊かにすることが、学校も地域もよくすることにつながっています。

「ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）」を豊かにすることが、学校も地域もよくすることにつながっています。

「ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）」は、他者への「信頼」、お互い様という「互酬性の規範」、人びとの間の「絆」です。

このソーシャル・キャピタルは、目に見えるものではありませんが、教育とは互いに影響し合っています。例えば、アメリカではソーシャル・キャピタルが高い州では、子どもの標準学力テストの成績が高く、双方に強い相関関係があることを示す研究成果があります。

さらに、地域のソーシャル・キャピタルでは、保護者の地域コミュニティへの加入や地域での活動などが、子どもの学業成績へのプラスの効果をもち、子どもの地域参加も活発になる傾向もみられます。

わが国でも、子どもにとって“家庭・家族とのつながり”、“地域社会・近隣社会とのつながり”、“学校・教師とのつながり”という三つの「人間関係のつながり」が豊かなものであるとき、子どもたちの学力形成に積極的な影響を与えることが多いと報告されています。

つまり、地域、家庭、学校と子どもとのつながりの多寡^{たか}が、子どもたちの学力に大きな影響を及ぼしています。また、学力のみならず、ソーシャル・キャピタルが豊かな地域（都道府県）では不登校率が低く、さらには、高等学校の中途退学率や校内暴力発生率の低さとも強い相関がみられることも指摘されています。

このようにみると、ソーシャル・キャピタルを豊かにし、よい「地域づくり」をしていくことが、子どもたちにもプラスに影響し、よい「学校」づくりにつながっていると考えられます。逆に「学校」づくりに保護者や地域住民がかかわることは、子どもだけでなく、大人自身の育ちや、「地域づくり」にもつながっているともいえます。

現在、出雲崎小・中学校は、子どもたちが、町の歴史や文化、産業を学ぶことができるように、学校支援地域本部事業として、地域の「人・もの・こと」を活用できる体制を整えています。出雲崎小学校には、毎日登下校を見守ってくださるスクールガードボランティアの皆様他に、年間延べ200名を超える地域の皆様が、ボランティアとしてかかわってくださっています。また、出雲崎中学校にも、総合的な学習などの時間に、延べ100名を超える地域の皆様が、ボランティアとしてかかわってくださっています。

出雲崎町は、学校を核とした地域づくりにも、積極的に取り組んでいます。